


ふりがな	とだこやなぎいせき	
遺跡名	戸田小柳遺跡 (厚木市No.137遺跡)	
調査期間	20121201～継続中	
所在地	厚木市酒井	
時代	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世 近代	

更新日:平成25年7月1日

調査原因	新東名高速道路(戸田・跡掘)建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置	厚木市南東部、小田急線本厚木駅から約3.6km南に位置する。相模川右岸の沖積微高地に立地する。
主な調査成果	弥生時代から近代までの遺構や遺物が確認されています。近代では、昭和30年まで利用されていた相川村役場の基礎とみられる遺構が検出されています。大型の礫や切石を用いて構築されています。また、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の溝状遺構が見つっています。本遺跡は水が豊富な土地であるため、各時代の人々が水を治めたり、利用したりするためのものではないかと推測しています。遺物は中世、近世の陶磁器類や弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代の土器等が出土しています。



▲ 相川村役場基礎



▲ 奈良・平安時代(上)、中世(下)溝状遺構



▲ 古墳時代溝状遺構



▲ 弥生時代溝状遺構